

2026年07月 イーアイデム会員対象アンケート結果

TOPICS

希望勤務地の地域別最低賃金を正しく知っている求職者は28.6%

株式会社アイデム 人と仕事研究所

調査名

- 【イーアイデム会員限定】お仕事探しに関するアンケート

調査目的

- 現在の求職者の状況を把握し、今後のサービス向上・商品開発につなげる

調査対象

- 総合求人サイト「イーアイデム」の会員で、2026/07/01～2026/07/31の期間にイーアイデムから何らかの求人に応募した人

調査期間

- 2026/07/02～2026/08/05（35日間）

調査方法

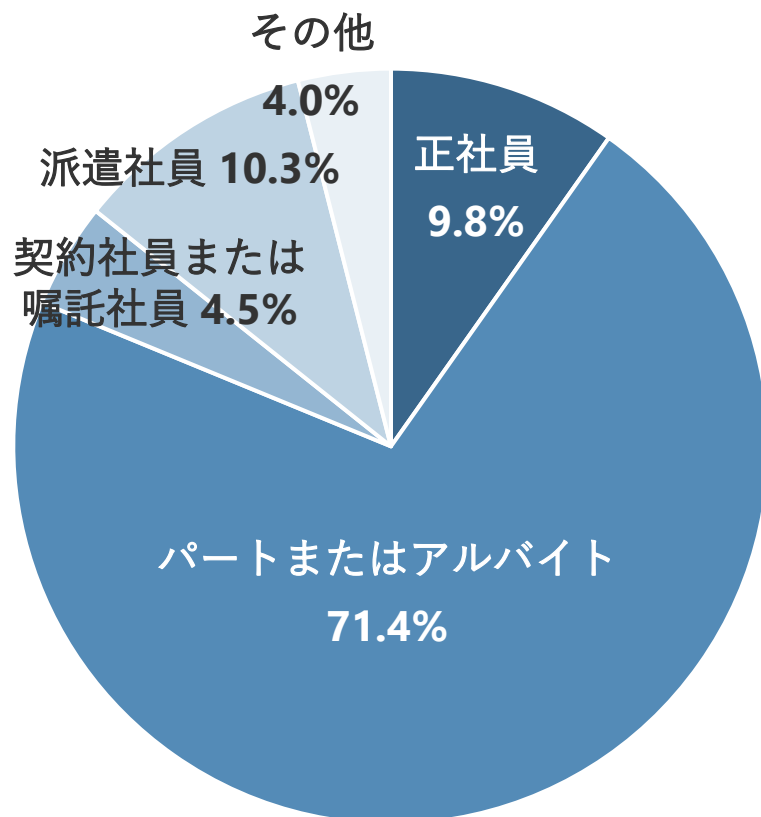
- インターネットリサーチ

有効回答数

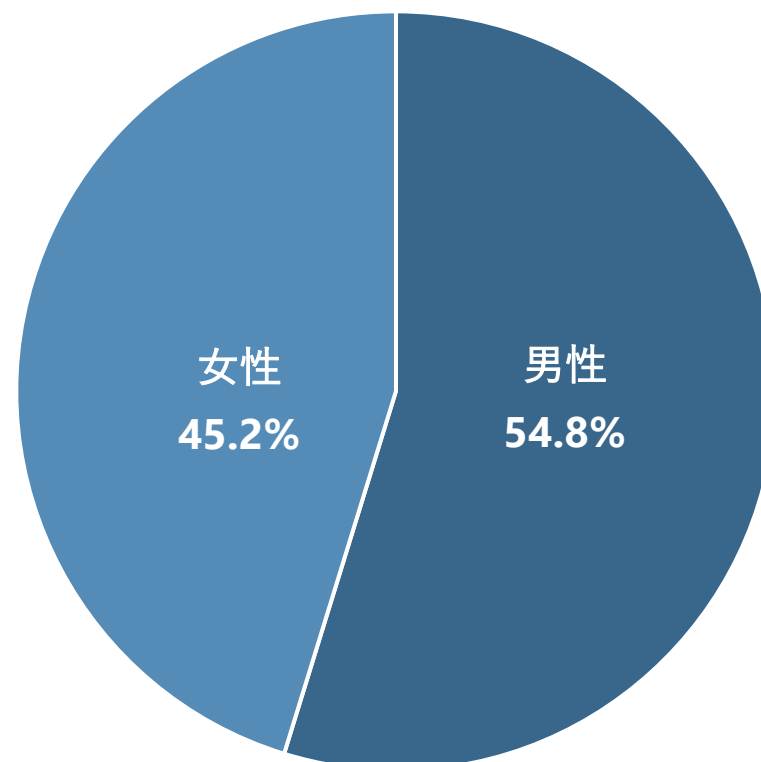
- 378件

※調査結果は四捨五入しているため、構成比の合計が100%にならない場合があります

希望する雇用形態



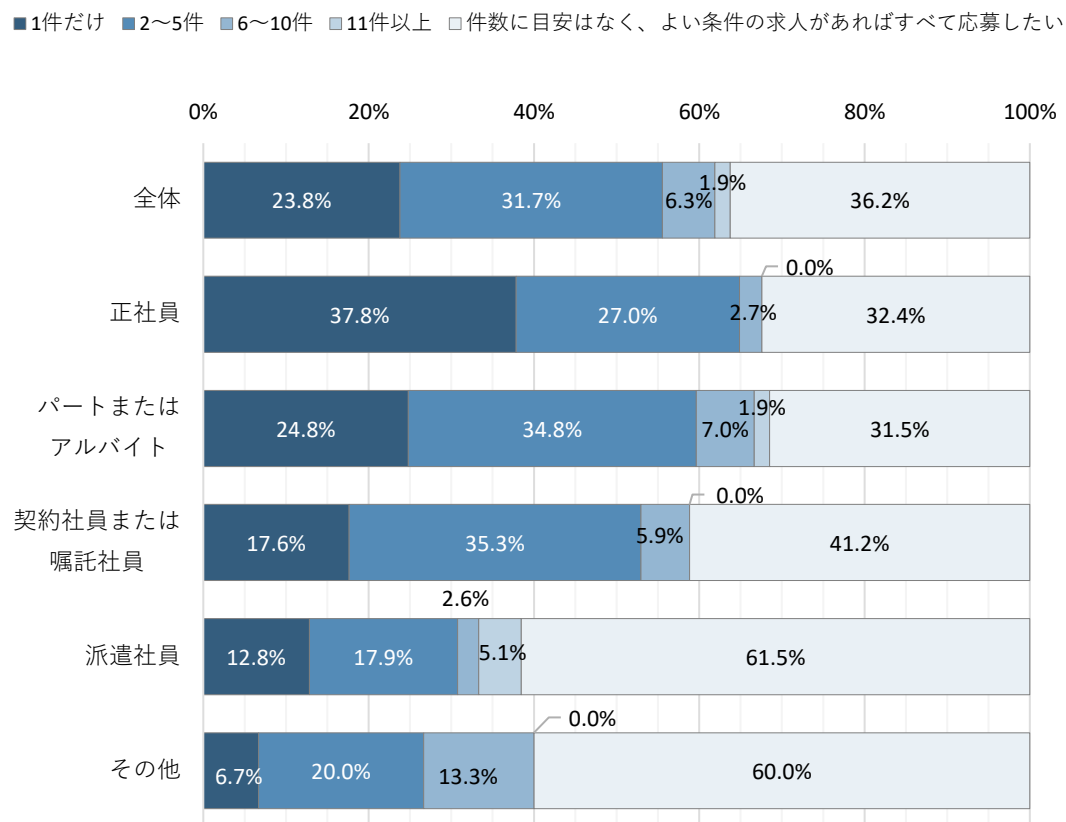
性別



イーアイデムに掲載された求人に応募した人に、今回の求職活動期間の中で、求人に応募する件数の目安があるかどうかをきいた。全体では「件数に目安はなく、よい条件の求人があればすべて応募したい」が最も多く36.2%、次いで「2～5件」が31.7%、「1件だけ」が23.8%、「6～10件」が6.3%、「11件以上」が1.9%となった。「1件だけ」以外を選んだ割合は全体の76.2%で、複数件の応募を視野に入れている人が大半を占める。

希望雇用形態別にみると、「派遣社員」を希望する人では「件数に目安はなく、よい条件の求人があればすべて応募したい」が61.5%で、全体を25.3pt上回った。

今回の求職活動期間の中で、
およそ何件ほど応募しようと思いますか。



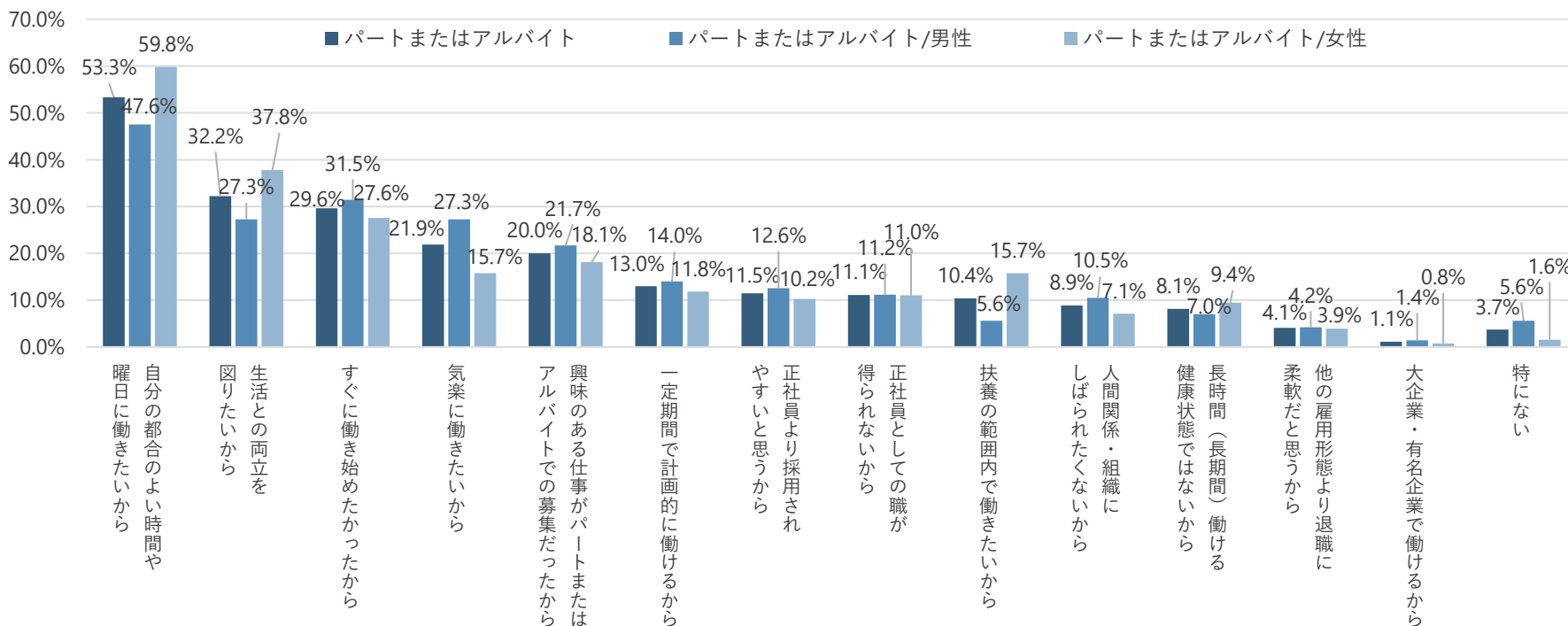
パート・アルバイトを希望する理由

イーアイデムに掲載された求人に応募した、パートまたはアルバイトを希望する人に、なぜその雇用形態を希望するのかをきいた（複数回答）。最も多かったのは「自分の都合のよい時間や曜日に働きたいから」で53.3%、次いで「生活との両立を図りたいから」が32.2%、「すぐに働き始めたかったから」が29.6%となった。勤務時間や曜日の柔軟性、私生活との両立を重視していることがわかる。

性別との関係を見ると、「男性」のほうが「女性」よりも「気楽に働きたいから」が11.6pt高かった。気持ちの面で負荷が少ない働き方を求める人が一定数いるようだ。

一方、「女性」のほうが「男性」よりも「自分の都合のよい時間や曜日に働きたいから」が12.2pt、「生活との両立を図りたいから」が10.5pt、「扶養の範囲内で働きたいから」が10.1pt高くなった。時間や収入に一定の制約がある中でも働ける形を望んでいる傾向があるようだ。

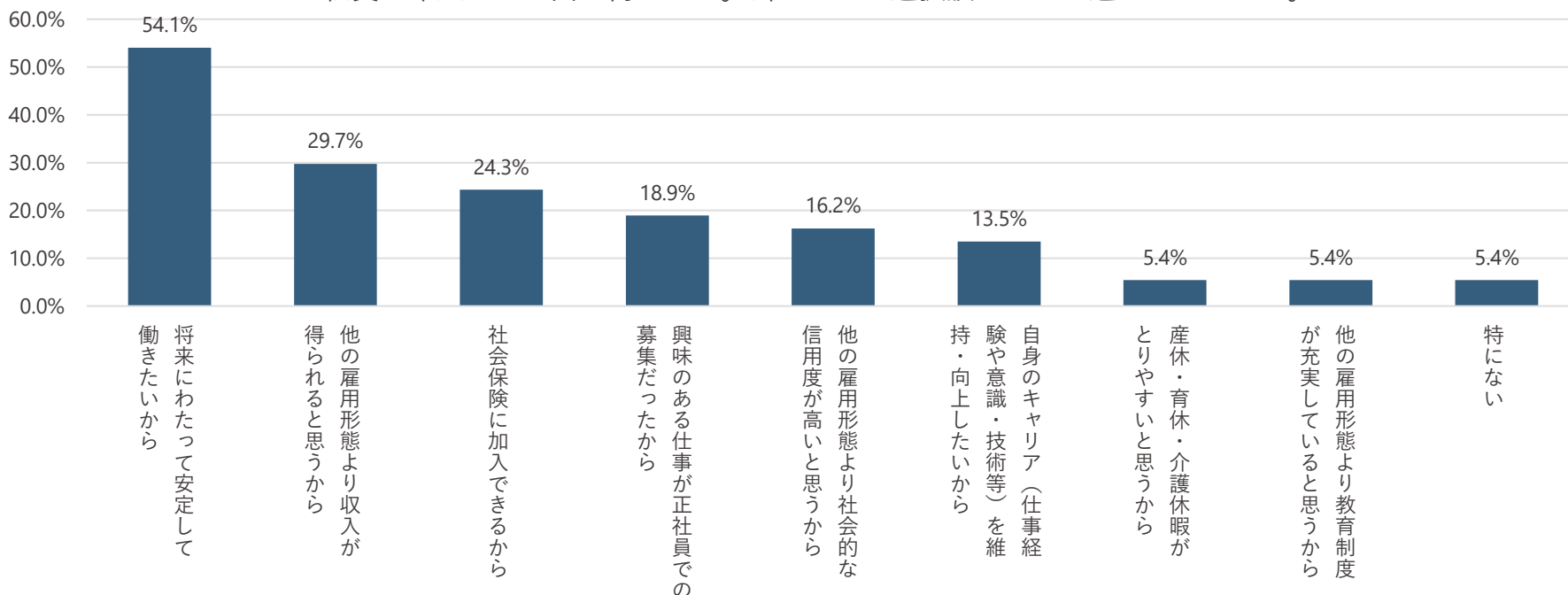
パートまたはアルバイトを希望する理由は何ですか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。



イーアイデムに掲載された求人に応募した、正社員雇用を希望する人に、なぜ正社員を希望するのかをきいた（複数回答）。

最も多かったのは「将来にわたって安定して働きたいから」が54.1%、次いで「他の雇用形態より収入が得られると思うから」が29.7%、「社会保険に加入できるから」が24.3%となった。長期的な雇用の安定とともに、収入や社会保険といった生活基盤を重視していることがわかる。「自身のキャリアを維持・向上したいから」は13.5%で、雇用形態の選択理由としてはキャリア形成は上位にはならなかった。「特にない」を選んだ割合は5.4%で、大多数は明確な理由をもって正社員雇用を希望していることがわかる。

正社員を希望する理由は何ですか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。



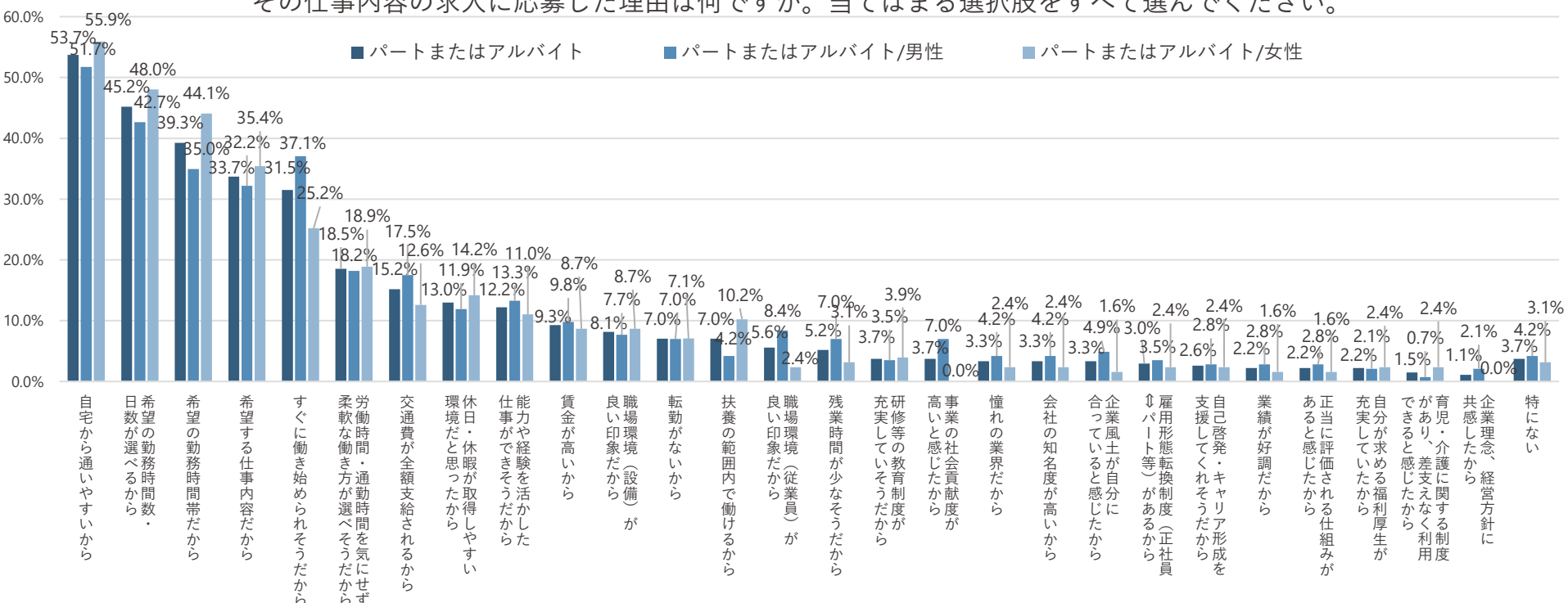
求人に応募した理由（パート・アルバイト希望の場合）

イーアイデムに掲載された求人に応募した、パートまたはアルバイト雇用を希望する人に、自身が応募した求人を選んだ理由をきいた（複数回答）。最も多かったのは「自宅から通いやすいから」で53.7%、次いで「希望の勤務時間数・日数が選べるから」が45.2%、「希望の勤務時間帯だから」が39.3%となった。応募先の選択においては、通勤利便性に加えて、働く時間や日数に関する柔軟性が重要な判断基準となっているようだ。

性別との関係を見ると、「男性」のほうが「女性」よりも「すぐに働き始められそうだから」が11.9pt、「事業の社会貢献度が高いと感じたから」が7.0pt、「職場環境（従業員）が良い印象だから」が6.0pt高くなった。仕事始めまでの即時性のほか、事業が社会へ与える影響についても応募意欲につながりやすそうだ。

一方、「女性」のほうが「男性」よりも「希望の勤務時間帯だから」が9.1pt、「扶養の範囲内で働けるから」が6.0pt高くなった。勤務時間帯や収入の条件を重視する傾向が男性より強いようだ。

その仕事内容の求人に応募した理由は何ですか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。

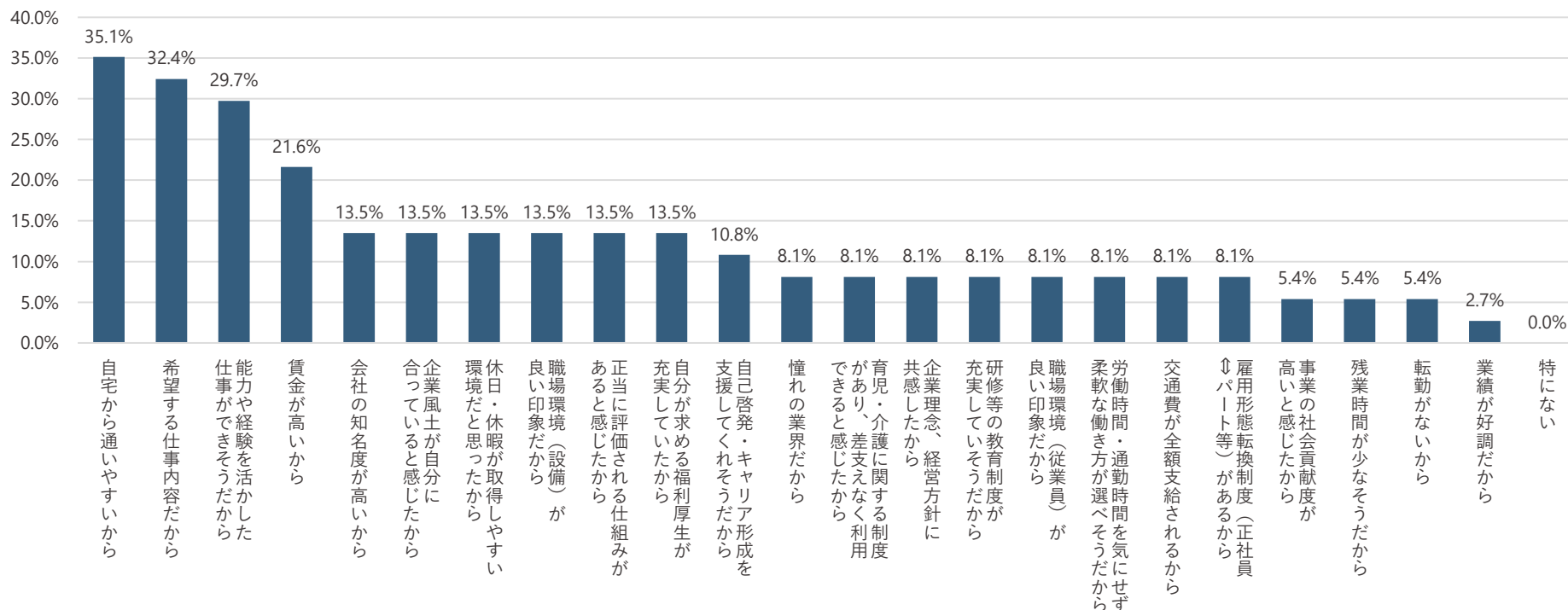


求人に応募した理由（正社員希望の場合）

イーアイデムに掲載された求人に応募した、正社員雇用を希望する人に、自身が応募した求人を選んだ理由を聞いた（複数回答）。

最も多かったのは「自宅から通いやすいから」が35.1%、次いで「希望する仕事内容だから」が32.4%、「能力や経験を活かした仕事ができそうだから」が29.7%となった。仕事内容やこれまで培ってきた経験とのマッチング具合が応募先選定の要素として重要であることがわかる。求人情報では職務における具体的な活躍イメージまで記載することで応募につながりやすくなりそうだ。

その仕事内容の求人に応募した理由は何ですか。当てはまる選択肢をすべて選んでください。



イーアイデムに掲載された求人に応募した人に、就業を希望する勤務地と、その勤務地に適用される地域別最低賃金を知っているかをきき、「はい」と回答した人には金額を記入してもらった。本調査では、回答時点で適用されていた令和7年度地域別最低賃金額を正答とした。その結果、希望勤務地の正しい地域別最低賃金額を把握していた人は全体の28.6%にとどまった。地域別最低賃金を正誤問わず「知っている」と回答した人は53.2%いたものの、そのうち約半数にあたる24.6%は金額を誤って認識している。一方、「知らない」と回答した人は46.8%だった。

希望雇用形態別にみると、「正社員」では正しく把握していた人が18.9%と、「パートまたはアルバイト」の28.5%より9.6pt低かった。時給での就業を前提としていない場合、地域別最低賃金額への意識が薄いのかかもしれない。

年代別にみると、「30代以下」で正しい金額を把握していた割合は13.1%だった。一方、40代以上ではいずれも3割を超えた。「30代以下」では「知らない」が72.1%とほかの年代より高く、適用される最低賃金額を把握していない人が多かった。

「知っている」と回答したが金額は間違っていた人の中には、全国加重平均額や前年の地域別最低賃金額を記入した人がいた。金額はほぼ毎年更新されるため、正確に周知する工夫のほか、年代に合わせた施策や、知らなくても労働者が守られる仕組みの構築が求められる。

就職を希望する勤務地で適用になる地域別最低賃金を知っていますか

